



- 第 1 回 -

醫翳りに  
木漏れ日、  
それから緑

kageri  
ni  
komorebi,  
sorekara  
midori

日がけるまにまに  
歩きましよう

光る影と  
日差しの間  
ちよつど気持ちのよい  
狭間をぬって

お兄様ったら



お支度の時間が  
婦人並よ

そんなに  
お出かけが  
お嫌なのかしら？

ノックを  
しろ

いつも言ってる  
だろう喜久子

晩餐会でも  
そんな沈んだお顔を  
してはだめよ

心配するな  
まだ半分しか  
沈んでない

大正十二年

もう半分は  
結婚したら  
沈むのかしら？

あまり  
はしたない事を  
言うな

かわいく  
ないぞ

それを言ったら  
お兄様も  
相当かわいくないわ

男にそんな物が  
あっても  
ムダなだけだろ

明治を経て  
十年あまり

時代は  
移ろい行くが  
人の心は大きくは  
変わらない

あら！  
そういう事  
じゃないのよ

もう行く

ねえ

お兄様

お家を  
継ぐのは  
そんなにお嫌？

特に常識という奴は

嫌だよ

カ  
ツ  
ツ  
キ  
イ

やすい  
安井

車の  
準備は？

すでに整って  
おります

それもお嫌  
かもしれない  
けれど

逆だったら  
よかったの  
かしら

私と  
お兄様は

くろぎ  
黒木伯爵

本日はようこそ  
おいでくださった

いやあ  
お父様の事は  
誠に残念でした  
なあ

その節は  
大変お世話に  
なりました

なんのなんの！  
とんでもない

ご息が  
立派であられて  
お父様もさぞ  
空の上で喜んで  
おられる事で  
しような

それに  
大層  
美男子で  
いらっしやる！

ご結婚のお話は  
まだないと  
お聞きしてますが

引く手あまたで  
ございましょう

なあ  
ゆりこ  
百合子

ゴクッ

娘の百合子で  
ござります

今年で  
十七に  
なります

はじめまして

黒木宗太と申します

百合?  
芋の間違いだろっ?

そうだ百合子!  
黒木殿にダンスの  
お相手をして頂いたら  
どうだ

いえ、そんな

私はダンスは  
不得手です  
大事なお嬢様の  
足を踏んでしまっても  
したら大変ですし

かほちゃと  
牛蒡の娘じゃ  
こんなもんだな

わはは!  
ご謙遜を

女は苦手だ

特に下品な下心が  
透けて見える瞳が

久しぶりだな  
黒木伯爵!

やあ

ありま  
有馬……!!

お話中に申し訳  
ありません  
懐かしい顔を見つけて  
つい

有馬家のお坊ちゃん  
にいらして  
頂けるとは

父も兄も  
都合がつかず  
私のような若輩者が  
失礼いたします

なら決まりだ

ここはいったん  
失礼するよ  
また後で

ああ

黒木も  
すまない  
ジャマをした

いや

久しぶりで  
話したい事も  
あるが……

ここで長話もなんだ  
よかったら  
この後、飲まないか

わはは

それは  
構わないが

ぽんっ





まったく  
とんだ色男  
ですな

あのお坊ちゃん  
のせいで風紀が乱れ  
やしないか心配です

ご婦人どころか  
男色にまで  
手を染めている



そんな噂も  
あるようですから

…う

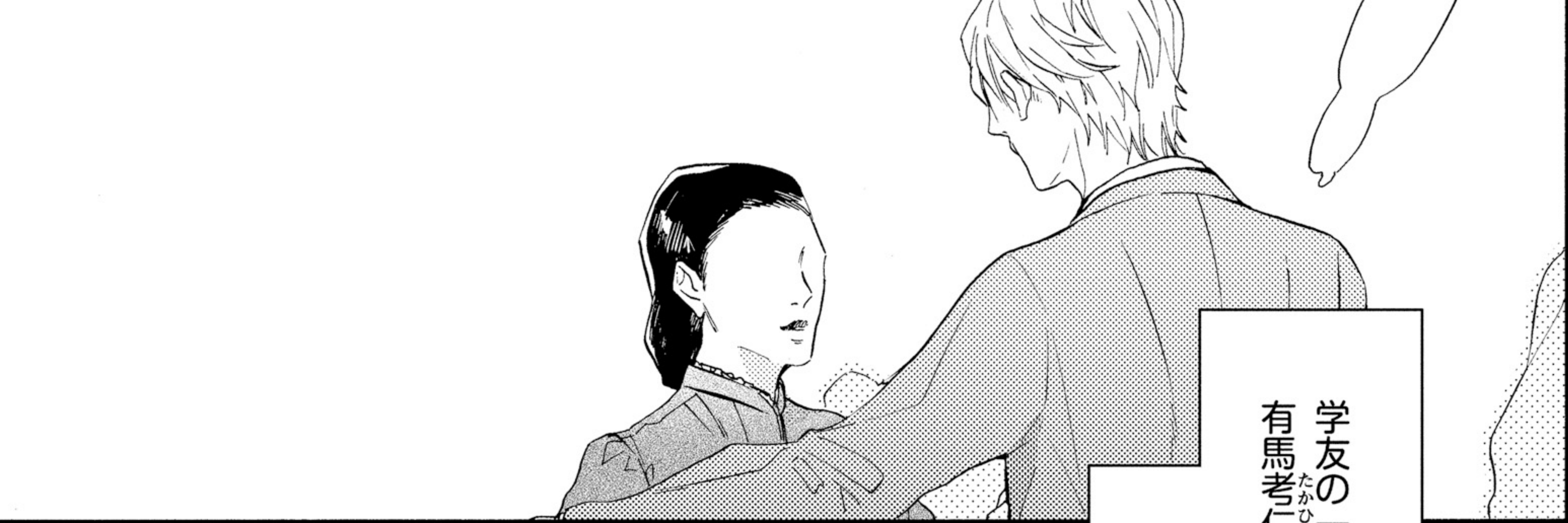
わさ…か

なんでも  
気に入れば  
誰でも抱くんだとも

ちよつと  
お父様

失礼





学友の一人  
有馬考仁<sup>たかひと</sup>

その男は



俺の記憶の中で